

報告番号	※	第	号
------	---	---	---

主 論 文 の 要 旨

論文題目 現代中国語の程度表現に関する研究

氏 名 謝 平

論 文 内 容 の 要 旨

本研究は、現代中国語の程度表現 (degree expressions) の諸相について考察したものである。現代中国語の程度表現には、“很高兴”の“很”のように述詞の前に置く程度状語 (adverbial of degree) を用いた表現と、“高兴得很”の“很”のように述詞に後置する程度補語 (complement of degree) を用いた表現の二種類が存在する。程度状語と程度補語についてはこれまでも多く研究されているが、両者を体系的に関連付けて、その使い分けに言及したものはほとんどみられない。また、程度状語と程度補語の範囲についても統一した見解が示されていない。本研究では現代中国語の程度表現の枠組みを定めた上で、意味論と統語論の観点から各級の個別表現を分析し、中国語における程度表現の体系の構築を目指した。

本研究の構成及び各章の要旨は次の通りである。

序章では、本研究の目的と意義、及び各章の構成を述べた。

第1章では、まず本研究の中核をなす「程度表現」について、統語的側面と意味的側面から定義を行った。その上で、現代中国語における程度表現の諸現象を取り上げ、その共起制限、程度状語・程度補語の文法的条件について考察した。さらに、統語的特徴及び意味的特徴に基づいて、現代中国語の程度表現を「対象の程度を表すもの」【A 類程度表現】と「対象と参照点の程度差を表すもの」【B 類程度表現】に下位分類した。

(1) 【A 類程度表現】

程度状語：“有点、挺、很、相当、非常”など

程度補語：“极、透、很、要命、不得了”など

【B 類程度表現】

程度状語：“更、还、最、比较”など

程度補語：“多、远、一点、几倍”など

第2章と第3章では、A類程度表現の典型的な表現を取り上げ、第4章と第5章ではB類程度表現を中心に考察した。

第2章では、低い程度を表す“有点”と高い程度を表す“很”を例として、A類程度状語の特徴について考察した。対象の程度に焦点を置くA類程度状語としては、低い程度を表す“有点、有些”や、高い程度を表す“很、挺、相当、非常”などが挙げられる。これまでの先行研究では、“有点”は通常マイナスの意味を表す語と共起すると指摘されてきた。しかし、次の例のように“有点”には中性的意味の語やプラスの意味の語と共起するケースも多くみられる。

(2) 茂才心里有点明白，神情反而淡淡的。<朱秀海《乔家大院》>

(3) 我爱过他，现在也还有点喜欢他。<杨沫《青春之歌》>

第2章ではまず参照点という概念に着目し、参照点が想起できる場合には中性・プラスの意味の語と共起することが可能であるという仮説を立て、“有点”の共起制限を探った。一方、程度が高い表現“很”には程度状語として用いられる場合と程度補語として用いられる場合がある。

(4) 这天晚上天气很好，月亮很亮照得大地白晃晃的。<肖华《往事悠悠》>

(5) 今天天气好得很，我们到黄花岗逛一逛去吧！<洪灵菲《前线》>

程度状語を用いた場合には程度補語で表される場合ほど程度が高くないと指摘されているが、その動因についてはまだ明らかにされていない。第2章では程度補語“很”との比較を通して、「叙述的」か「強意的」かというニュアンスの違いという観点から程度状語“很”の意味機能を分析し、両者の相違を解明した。

第3章では、二種類のA類程度補語(“得”を伴う表現と伴わない表現)を取り上げ、それぞれの意味機能と文法機能を明らかにした。“得”を伴う表現については、“很、要命、要死、不得了”などの表現が程度表現として認められているが、“难受得快要死了”の“快要死了”のような補語が程度補語であるか否かについては意見が分かれている。第3章ではまず程度補語について定義し、“形容詞+得”に後置する“难受得快要死了”の補語のような語句も程度補語の周辺の表現であることを論証した上で、“得”を伴う補語を下位分類し、それぞれの文法的特徴と意味的特徴について分析した。一方、“得”を伴わない表現としては、“极、死、坏、透、疯……”などが挙げられる。これらの表現は形容詞との共起が自由ではなく、できない場合がある。例えば、

(6) a. 帅极了 | ?帅死了 | *帅坏了 | *帅透了 | *帅疯了

b. 伟大极了 | *伟大死了 | *伟大坏了 | *伟大透了 | *伟大疯了

第3章では、とりわけ使用頻度の高い表現の“极”と“死”を取り上げ、動詞としての意味と程度表現としての機能の間にどのような関係があるのかについて分析した。また、形容詞を「属

性判断形容詞」、「褒貶評価形容詞」、「感覺感情形容詞」の三類に分けた上で、これらの形容詞との共起について詳しく分析し、「極」と「死」の意味と用法についてもあわせて考察を行った。

第4章では、「比」構文で用いられる「更」、「还」、及び「比」構文では用いられない“比较”を取り上げて、それぞれの意味機能と用法を明らかにした。「比」構文で用いられる「更」と「还」は、ともに「さらに」という累加の意味を表すこともあり、置き換えられる場合が少ない。しかし、「还」は程度差を表す補語“多”や数量補語などと共起することができるのに対し、「更」は“*更长多了”、“*更高三厘米”のように共起しにくいケースがみられる。第4章では“更”の「確信的」、「还」の「逆説的」というニュアンスに着目して分析を行った。また、「程度差」との関係から両者の“比”構文に対する「依存」の度合いについても考察した上で、語用論の観点から両者の用法の違いについて検討を行った。一方、“比较”は“比”構文には用いられないものの、比較対象が提示される場合には用いられるケースが多い。B類程度状語は比較対象が存在する場面に用いられ、比較対象と照らし合わせる「相対性」を持っているといえる。しかし、“比较”は次の例(7)、(8)のように比較対象が提示されない場合にも用いられ、B類程度状語に共通する「相対性」以外の特徴も持っていると考えられる。

(7) 明远这个人比较谨慎。<姚雪垠《李自成》>

(8) 但由于健康状况欠佳，一直比较消沉。<CCL 语料库/《中共十大元帅》>

第4章では「どちらかといえば対象の程度のほうが高い」という「弁別的」なニュアンスに着目し、“比较”の意味特徴の解明を試みた。

第5章では、B類程度補語の典型例である“多”を用いた表現と“一点”を用いた表現を取り上げ、それぞれの意味機能と文法機能を考察した。「程度差が大きい」ことを表す“多”が用いられる表現には“V+多+了”、“V+得+多”、“V+程度副詞+多”などのタイプがみられる。この三つのタイプは次の例(9)、(10)のように互いに置き換えられる場合もあれば、置き換えられない場合もある。

(9) 实际上，人类的生活，比你刚才编的那个故事复杂多了。(→ 复杂得多/复杂很多) <倪匡《黄金故事》>

(10) 他的伤口今天好多了。(→ [?]好得多/[?]好很多) <CCL 语料库/翻译作品《战争与和平》>

第5章では「共時的比較」と「通時的比較」という視点から、“多”を用いた表現の各タイプの用法について考察した。一方、「程度差が少ない」ことを表す“一点”が用いられる表現には、主に“V+一点”と“V+了+一点”の二つのタイプがある。また、例(11)、(12)のように“V+了+一点”にはA類程度状語を用いた表現“有点+V+(了)”との置き換えが可能な場合もみられる。

(11) 今天的面咸了一点。(→有点咸(了)) <香奈儿《小妻宝贝》>

(12) 地铁还是有点贵。(→贵了一点) <CCL 语料库/新华社 2004 年新闻稿>

第 5 章では“有点+V”との比較を通して、プラスの意味、中性の意味、マイナスの意味を表す述詞との共起関係を考慮に入れつつ、「不満足」、「不如意」というニュアンスが含意されるか否かに着目して“V+一点”と“V+了+一点”の意味用法を分析した。

終章では、現代中国語における程度表現の体系を示すとともに、中国語の程度表現全体を通して、その意味的・文法的特徴をまとめた。